


2 平成 29 年(2017 年)の患者調査における外来受療率(人口 10 万対)で最も多い傷病はどれか。

1. 新生物(腫瘍)
2. 呼吸器系の疾患
3. 消化器系の疾患
4. 内分泌、栄養及び代謝疾患

テコム必修問題スピードテスト

Round2

3

平成 29 年(2017 年)の患者調査の外来受療率が最も高いのはどれか。

1. 循環器系の疾患
2. 消化器系の疾患
3. 呼吸器系の疾患
4. 筋骨格系及び結合組織の疾患

覚えて！

外来受療率が最も高い疾患は消化器系の疾患である。

選択肢考察

- × 1. 循環器系の疾患は、人口 10 万対で男女総数 702（男性 644、女性 756）であり、消化器系の疾患に次いで高率である。
- 2. 消化器系の疾患は、男女総数 1,021（男性 890、女性 1,144）であり、最も高率である。また、この中にはう蝕や歯肉炎などの歯科系の疾患が含まれていることにも留意すべきである。
- × 3. 呼吸器系の疾患は、男女総数 497（男性 479、女性 514）である。
- × 4. 筋骨格系及び結合組織の疾患は、男女総数 692（男性 522、女性 853）である。

参考&正解：

正解 2



Key word

<患者調査>

患者調査は、病院や診療所（医療施設）を利用する患者の属性や入院・来院時の状況、傷病名などの実態を明らかにするとともに、地域別患者数を推計することにより、医療行政の基礎資料を得ることを目的として 3 年に 1 回実施される。

患者調査では、傷病分類別の患者数（外来・入院、都道府県別）や受療率（外来・入院、都道府県別）等の結果を提供している。また、日本における疾病構造について、国際比較が可能な疾病分類に基づき詳細な分類での把握ができる唯一の全国調査である。

- 13 キュブラー・ロス, E. による死にゆく人の心理過程で第5段階はどれか。
Kübler-Ross, E.

1. 怒り
2. 否認
3. 死の受容
4. 取り引き

テコム必修問題スピードテスト

Round 3

11

キュブラー・ロス, E. による死にゆく人の心理過程で第2段階に起こる心理的变化はどれか。

1. 衝撃
2. 怒り
3. 取り引き
4. 否認と孤立

覚えて！

キュブラー・ロスは、死の受容段階を「否認→怒り→取り引き→抑うつ→受容」と示した。

選択肢考察

- × 1. 「衝撃」はフィンクの疾病受容に至る過程の第1段階である。
- 2. 「怒り」は死の受容過程の第2段階である。「なぜ自分だけが」と激しい怒りを表す。
- × 3. 「取り引き」は死の受容過程の第3段階である。「治るためなら何でもする」と条件付き約束を申し出る。
- × 4. 「否認と孤立」は死の受容過程の第1段階である。「そんなはずはない」「何かの間違えだ」と事実を否定する。

参考&正解：老年：286

正解 2



Key word

<キュブラー・ロスの死の受容過程>

第1段階	「否認と孤立」	死についての告知を受けた直後の衝撃に対して、事実の否定や自己に都合のよい情報のみを選択して軽い状態と解釈したりする。
第2段階	「怒り」	現実のことで受け入れざるを得ない状況になると、「なぜ自分が」「自分が何かしたのか」と自身の運命に対して怒りを表す。
第3段階	「取り引き」	周囲の人や神に対して、「死を逃れるためなら何でもする」というように、条件付き約束を自ら申し出る。
第4段階	「抑うつ」	怒りや取り引きによっても、自分の運命が変わらないということを知り、うつ状態に陥る。
第5段階	「受容」	不可避の状況を受け入れ、静かに収束していく最終段階。

23 輸液ポンプを使用する目的はどれか。

1. 感染の防止
2. 薬液の温度管理
3. 薬物の効果判定
4. 薬液の注入速度の調整

テコム必修問題スピードテスト

Round 3

45

輸液ポンプの使用目的はどれか。

1. 保温
2. 感染防止
3. 異物除去
4. 注入速度の調整

覚えて！

輸液ポンプの使用目的は、輸液の注入速度の調整である。

選択肢考察

- × 1. 輸液ポンプに保温の機能はない。大量の輸液や輸血が必要な手術では、低体温予防に**輸液・輸血加温装置**が用いられる。
- × 2. 輸液ポンプの使用で感染を防げるものではない。輸液に関連した感染は、調合などの準備中や輸液ルートの接続部から起こりやすいので、**無菌操作**を徹底する。
- × 3. 輸液ポンプに異物除去の機能はない。異物除去目的で使用するものとして、**輸液フィルター**がある。
- 4. 輸液セットのクレンメによって注入速度を調整する**自然落下法**に対し、機械のポンプを利用する輸液ポンプは、**1時間あたりの輸液量を正確に調整**することが可能である。

参考&正解：基医：389

正解 4



Key word

<輸液ポンプの操作>

輸液ポンプは、輸液を正確に注入するための医療用機器である。使用方法を理解し、正しく使用する必要がある。

1. ドアロックレバーを解除して、電源を入れる。
2. 輸液ポンプ内の溝に、輸液ルートをたるみがないようにセットする。
3. ドアロックレバーを押して、確実にドアをロックする。
4. 注射指示量に基づき、輸液の流量（mL/時）と予定量を設定する。
5. クレンメを全開にして、点滴筒内の滴下がないことを確認する。
6. 開始スイッチを押して、点滴を開始する。



4 患者の権利について適切なのはどれか。

1. 患者は入院中に無断で外泊できる。
2. 患者は治療後に治療費の金額を決定できる。
3. 患者はセカンドオピニオンを受けることができる。
4. 患者は自分と同じ疾患の患者の連絡先を入手できる。

テコム PreTest 2nd

基礎看護 目標 I-1-D

▶▶ 患者の権利

PM
□
□
□

37 患者の権利について適切なのはどれか。

1. 患者は自分の医療情報を見られない。
2. 患者の意思で担当医の変更はできない。
3. 患者が望まなくても治療の説明は行う。
4. 患者はセカンドオピニオンを受けられる。

覚えて！

患者は、他の病院の医師に〔セカンドオピニオン〕を受ける権利がある。

- 選択肢考察：×
1. 患者は、**情報を知る権利**があり、自分の医療情報を見ることができるため該当しない。
 2. 患者は、**良質の治療を受ける権利、選択の自由、情報を知る権利**があり、治療の途中であっても担当医の変更が可能であるため該当しない。
 3. 患者には、**知る権利**と**知らない権利**がある。患者が望まない場合は、治療などの説明は受けなくてよいため該当しない。
 - 4. **良質の治療を受ける権利、選択の自由、情報を知る権利**があり、他の病院の医師に診断を受けることができる。

参考&正解：基看；45 必ラ；19

正解 4

Essential Point

▶▶ 「患者の権利に関するリスボン宣言」(1981年世界医師会)

- | | |
|--------------|--------------|
| ①良質の医療を受ける権利 | ⑦情報に対する権利 |
| ②選択の自由の権利 | ⑧守秘義務に対する権利 |
| ③自己決定の権利 | ⑨健康教育を受ける権利 |
| ④意識のない患者 | ⑩尊厳に対する権利 |
| ⑤法的無能力の患者 | ⑪宗教的支援に対する権利 |
| ⑥患者の意思に反する処置 | |

7 乳歯がすべて生えそろう年齢はどれか。

1. 0～1歳
2. 2～3歳
3. 4～5歳
4. 6～7歳

テコム PreTest 2nd

必修 目標Ⅱ-7-C-a

▶▶ 幼児期の形態的発育

AM

☐

☐

☐

7 幼児期の形態的発育の特徴はどれか。

1. 生殖器官が急速に発達する。
2. 5歳までに手根骨の骨化が完成する。
3. 乳歯は2～3歳で20本が生えそろう。
4. 身長は出生時から1年で3倍になる。

覚えて！

身長は出生時から1年で〔1.5〕倍になる。体重は〔3〕倍になる。

選択肢考察：× 1. 生殖器官の発達には幼児期では緩徐である。最も発達するのは**第二次性徴**の時期である。

× 2. 男子では**12.5歳**ころ、女子は男子より早めに骨化が完成する。3～9歳ころまでは手根骨の化骨核数は年齢と同数か「年齢+1」で増加する。

○ 3. 乳歯は生後**6～8か月**ころより生え始め、**2～3歳**で20本が生えそろう。

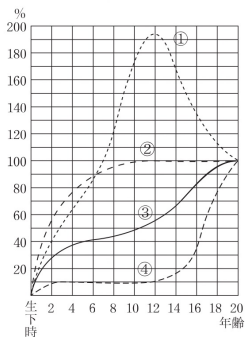
× 4. 身長は出生時から1年で**1.5倍**になる。3倍になるのは**体重**である。

参考&正解：小看；54 必う；28

正解 3

Essential Point

▶▶ スキャモン (Scammon, R. E.) の発育曲線



- ① リンパ系 (胸腺、リンパ、扁桃)
- ② 神経系 (脳、頭蓋骨、脊髓、視覚器)
- ③ 一般系 (骨格、筋、各臓器、循環器、消化器、顎骨、顔面頭蓋、動・静脈、血液)
- ④ 生殖系 (精巣、卵巢、性器)

21 空気感染を予防するための医療者の個人防護具で適切なのはどれか。

- 1 手 袋
- 2 N95 マスク
- 3 シューズカバー
- 4 フェイスシールド

テコム PreTest 2nd

基礎看護 目標Ⅱ-3-F

▶▶ 排菌中の肺結核患者への対応

AM
□
□
□

41 排菌が認められ、隔離室に収容されている肺結核患者。咳嗽および咯痰などの症状は現在はない。

この患者への対応で適切なのはどれか。

1. 空調管理は陽圧に設定する。
2. ガウンテクニックが必須である。
3. 患者が着用した衣類は消毒が必要である。
4. 入室時、看護師は N95 マスクを着用する。

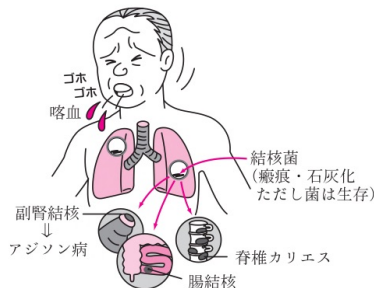
覚えて！

結核菌は（空気感染）（飛沫核）感染）をするため、患者と接触する際には、微粒子用の〔N95〕マスクを着用する。

- 選択肢考察：×
1. 結核は結核菌を含む分泌物が空中に浮遊することにより伝播する。従って、排菌が認められる患者は隔離し、隔離室の空調管理は、結核菌が隔離室外に広がらないよう陰圧に設定する必要がある。
 - ×
 2. 患者が隔離室に収容されている場合、基本的にガウンテクニック（予防衣（プラスチックエプロン）を着用して感染を防ぐこと）は必要ないとされている。ただし、強い咳嗽とともに多量の咯痰が認められる場合などはガウンテクニックが必要となる。
 - ×
 3. 結核菌は光や熱に弱いこと、付着した衣類などからの間接的な感染はごくまれであることから、通常どおりの洗濯で差し支えない。
 -
 4. 結核菌は空気感染（飛沫核感染）のため、患者と接触する際にはマスクの着用が必要である。サージカルマスクで対応する場合もあるが、排菌が認められている場合は原則として微粒子用マスクである N95 マスクを着用する。

参考&正解：疾患；7 ラ・スパ；211

正解 4



23 成人の持続点滴静脈内注射のために選択される部位で最も適切なのはどれか。

1. 足 背
2. 鼠 径
3. 前腕内側
4. 肘関節付近

テコム 基礎力チェックテスト

47

末梢静脈内点滴の注射部位で適切なのはどれか。

1. 殿 部
2. 前 腕
3. 鼠径部
4. 鎖骨下

- 選択肢考察** × 1. 殿部は、**筋肉内注射**や**皮下注射**などを行う部位である。
 ○ 2. 前腕は、神経交差部位や関節部位を除いて、第一選択で**点滴静脈内注射**の注射針が留置される部位である。
 × 3. 鼠径部は、動脈の脈の振動が表皮近くまで伝わり、他の臓器や神経などを傷つけずに**動脈血が採取できる**部位の一つである。
 × 4. 鎖骨下は、**中心静脈カテーテル**の挿入に用いられる部位である。

参考&正解：基看：320

正解 2

POINT

<各注射の主な目的と注射部位>

注射の種類	主な注射目的	主な注射部位
皮内注射	アレルギーの皮内テスト	前腕内側、上腕、背部など
皮下注射	予防接種やインスリン注射 等張性、非刺激性、非粘稠性の薬剤の投与による長時間作用目的	三角筋上部、上腕外側（肩峰より2/3）、腹部、大腿前面部、中殿筋部、背部など 皮下脂肪が5 mm 以上つまんで確認できる部位
筋肉内注射	油性、懸濁性などの粘稠性が高い薬剤、刺激性の強い薬剤、一部のワクチンの投与目的	三角筋、中殿筋
静脈内注射 点滴静脈内注射	薬液効果の即効性、経口摂取が不可能な場合など 中心静脈内点滴は、高カロリー輸液で末梢からの投与で静脈炎を起こす可能性がある場合などに行うほか、抗癌薬、心血管作動薬など	静脈内注射（ワンショット）： 前腕 、手背などにある皮静脈で神経交差部位を除く 末梢静脈内点滴：神経交差・関節部位を除く 中心静脈内点滴：右鎖骨下静脈、内頸静脈吻合部など

25 巨赤芽球性貧血の原因はどれか。
megaloblastic anemia

1. ビタミンA 欠乏
2. ビタミンB₁₂ 欠乏
3. ビタミンC 欠乏
4. ビタミンE 欠乏
5. ビタミンK 欠乏

テコム PreTest 1st

疾病 目標IV-8-B

▶▶ ビタミン欠乏症

- PM 32 ビタミンとその欠乏症の組合せで正しいのはどれか。
1. ビタミンA ——— 壊血病
 2. ビタミンK ——— ペラグラ
 3. ビタミンD ——— 新生児メレナ
 4. ビタミンB₁₂ ——— 巨赤芽球性貧血

覚えて！

悪性貧血（巨赤芽球性貧血）は〔ビタミンB₁₂〕の欠乏による。

選択肢考察：×1. 壊血病はビタミンCの欠乏によって発生する。

×2. ペラグラはナイアシンの欠乏による。

×3. 新生児メレナはビタミンKの欠乏による。

○4. 悪性貧血（巨赤芽球性貧血）はビタミンB₁₂の欠乏による。

参考&正解：基医；54

正解 4

Essential Point

▶▶ ビタミンの欠乏症と過剰症

	ビタミン名	欠乏症	過剰症
脂溶性ビタミン	ビタミンA	夜盲症、皮膚乾燥症、細菌への抵抗力の低下、成長障害など	脱毛、皮膚の剥離、食欲不振、肝障害、胎児奇形性など
	ビタミンD	骨や歯の成長障害、骨粗鬆症、骨軟化症	高カルシウム血症、腎障害、胎児奇形性など
	ビタミンE	溶血性貧血、神経障害など	—
	ビタミンK	乳児の出血症、出血傾向、血液凝固遅延など	—
水溶性ビタミン	ビタミンB ₁	脚気（主に心臓と神経系の障害）、ウェルニッケ脳症（中枢神経障害）など	—
	ビタミンB ₂	成長障害、口唇炎、舌炎、皮膚炎など	—
	ビタミンB ₃	ペラグラ（皮膚炎、下痢、精神障害など）	皮膚発赤作用、消化管・肝臓の障害など
	ビタミンB ₆	皮膚炎、神経障害、成長停止、体重減少、けいれんなど	神経障害、シュウ酸腎臓結石など
	ビタミンB ₁₂	悪性貧血、末梢神経障害など	—
	葉酸	悪性貧血、妊娠中の欠乏で出産児に神経管閉鎖障害	—
	パントテン酸	成長停止、皮膚・毛髪障害、末梢神経障害など	—
	ビオチン	皮膚炎、脱毛、けいれんなど	—
	ビタミンC	皮下出血、歯肉からの出血、壊血病など	—